

# 立命館大学文学部

## 木立雅朗教授 最終記念講義

# 考古学研究と社会

## —窯業考古学と京都学を中心に—

〈木立教授からのメッセージ〉

私は古代の須恵器窯跡群である丹波篠窯跡群の調査を行いながら、江戸時代の鳴滝乾山窯跡、近現代の京焼登り窯の考古学的調査を行ってきました。調査では文献資料だけでなく、民俗学・実験考古学の助けを得る必要があり、「窯業考古学」という総合的な視座を提起してきました。これらの調査の過程で地域の伝統工芸、友禅染や西陣織にも関わり、「京都学」の必要性を痛感させられました。近年では観光公害が大きな問題になり、地域に根差した歴史学の役割が改めて問いかれており、考古学研究と社会が連動できるのか模索したいと思います。

日時

2026年2月22日（日）  
10:00～11:30（9:30開場）

場所

立命館大学衣笠キャンパス  
KM201号教室（啓明館2階）

京都府京都市北区等持院北町56-1  
(京都市バス・西日本JRバス立命館大学前バス停下車)

参加費  
無料

事前参加申し込み不要  
オンライン同時配信あり



木立雅朗 教授 調査地  
(五条坂の窯)

### 《木立雅朗教授 略歴》

- 1960年 7月12日生まれ
- 1984年 3月 立命館大学文学部卒業
- 1989年 4月 石川県埋蔵文化財センター
- 1995年 4月 立命館大学文学部助教授
- 2004年 4月 立命館大学文学部教授

### 《主な研究業績》

- 「五条坂南側町並散華の図」を読む-伊吹弘による鎮魂」「近代京都の美術工芸 II -学理・応用・経営」思文閣出版(2024年)
- 「観光公害と文化遺産—京都の伝統工芸の現状と課題からー」「歴史評論」890、歴史科学協議会(2024年)

<https://ritsumei-ac-jp.zoom.us/j/95628923836?pwd=vZCV7ToBPSR7iprxrMbG6TQ2zQ0qoP.1>  
ミーティングID: 956 2892 3836  
パスコード: 300644

